OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ALS 患者との出会いと「ほぐすんです」の製作
Author(s)	白石, 駿也; 田原, 航平
Citation	臨床哲学のメチエ. 2012, 18, p. 26-27
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/23021
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ALS 患者との出会いと「ほぐすんです」の製作

白石駿也（立正大学）・田原航平（湘南工科大学）

ALS の方に向けた製品を作るということで、まずは使用者へのヒアリングを行うことになった。初めてお二方に会うことになったのは、湘南工科大学、立正大学、大阪大学の学生が集う夏合宿でのことだった。製品作りのためにヒアリングを行うということは、その時が初めてのことだったのでうまくいくか私は不安だった。しかし、実際にお二方にあったとき、そんな不安はごく些細なものになった。そのときまで、私は ALS の患者がどういう人なのかあまり分かっていなかったといえるだろう。知識として話せないということをわかってはいたが、実際にその人にヒアリングをするとなると、どうすればよいのか困惑した。とりあえず、どんなものが希望なのか、事前に用意していた質問をいくつか声に出してしゃべってみる。しかし、こちらからは理解してもらえたのかどうか、それ以前に聞こえているのかどうかのフィードバックも得られない。お二方のご家族は手馴れた様子で文字盤を使い林さん、和中さんから意見を聞いている。目線とまばたきでコミュニケーションをとると聞いてはいたが、実際に見てみるとそんな一文であらわせるほど容易ではなさそうであった。慣れているはずのご家族でも何度か訂正を繰り返しているくらいなのだ。私たちがコミュニケーションをとるとなったら、相当困難なことだろうと想像した。それと同時に、これからの製品作りが一筋縄ではいかないだろうという予感もしていた。

（しらいし　しゅんや）

「ほぐすんです」とは ALS 患者用マッサージ補助具のことで、2010 年に考案されたものです。そもそも ALS とは筋萎縮性側索硬化症のことで、筋肉の萎縮と筋力低下が起きてしまいます。進行スピードが早く、数年で全身が麻痺し、自分の力で動けなくなる人がほとんどです。その ALS 患者のリハビリの手段の一つとして、神経原生の筋萎縮に効果的なマッサージ、低周

波での刺激があります。患者さんは筋肉を動かしていない状態で長時間寝たきりになるので、患者さんにとって辛い状態にあります。そのことから、このマッサージ補助具が考案されたのだと思っています。

経緯としては、この 2 年間で、試作 1

号機～4号機まで多くの協力、助言、改良を重ねて作られてきました。1号機では必要な機能をつけ、2号機ではデザイン、スイッチの位置等を修正し、3号機ではケースの形を修正し、軽く簡易にするために分離させ、そして現在の4号機に至ります。

私は、今まで先輩方がやってきたことを引き継ぐ形で、今年度この「ほぐすんです4号機」の製作を担当しました。

私がこの活動に参加した期間は、9月～3月の半年間です。最初、何をやっているか全く分かっていないときにいきなり和歌山のALS患者さんのところに行くことになりました。このときは軽い気持ちで2日間行きましたが、前半は「何故こんなことをやっているんだろう」、「何故自分は参加しなければならなかったのか、大勢で行く意味はないんじゃないか」、このようなことを考え、活動に関わったことを後悔しかけました。しかし、最後にALS患者さん2人と話していくうちに、発病してからの気持ち、実態、不安、悲しみや辛さを聞いて、次第に自分もALS患者さんの身になって考えはじめました。とても苦しい気持ちになり、同時に「少しでも力になりたい、この活動を真剣にやらなければならないんだ」という気持ちになりました。この瞬間から、私は本気で4号機の製作を行うことを決めました。

今までの3号機から改良を求められたのは、シンプル、分かりやすさ、安全性の3つに特に重点をおいて作成しろ、ということでした。もちろん自分一人では難しいので、活動に関わっている後輩達の力を借りながら、製作に挑みました。一番苦労したのは、やはり内部の回路とプログラムです。内部は非常に複雑であり、少しでも位置を間違えると、正しく機能しないので、集中力を使います。なんとか完成し、3月に納品したときにはとても喜んでもらえました。半年前は何も出来なかった自分が役に立ったことを実感しました。短い期間でしたが真面目に取り組んでよかったです。

今回高評価を頂きましたが、これで終わりではありません。これからも後輩達がさらなる改良をしてくれることを期待しています。

（たはら　こうへい）